

10 ボランティアファンド学生チャレンジ賞（育成・支援プログラム）

職員総括

2017年度のボランティアファンド学生チャレンジ賞では、スタートアップ部門3団体、ジャンプアップ部門3団体、計6団体が助成対象となった。本報告書の活動内容からわかるように、ライブパフォーマンスの実施から海外の子どもたちの支援まで、幅広い活動が行われた。日頃ボランティア以外の活動を行っている団体もあり、彼らが積極的に社会のニーズを探り、企画の実施やその後に報告会を行うなど、本制度によって学生たちの活動が広がりを見せたことは嬉しい。

2018年度は8団体が受賞となっている。採用段階で1年生中心の団体も多く、実現に向けて不安要素もあることから採用までに何度か面接を重ねることもあった。しかしどの企画もキラキラと輝く学生らしいやる気に満ちているものがある。企画を立てた時の熱量を継続し、ぜひとも活動を実現させて欲しい。約半年後、どのような社会貢献活動の報告がなされるのか、今から楽しみである。

さらに2019年度は年間を通じて応募ができる新たな制度「いつでもボランティアチャレンジ」がスタートする。身近な社会的ニーズに気づき、自ら企画したボランティア活動をしたいと思ったその時に、いつでも応募できる新たなボラチャレの制度である。活動費がない、どうしたらよいかわからない、でも社会のために何かしたい、そんなやる気を持った学生たちに本制度を、そしてボランティアセンターをどんどん活用してもらいたい。

（職員 金子美咲）

10.1 ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2017 活動報告

「ボランティアファンド学生チャレンジ賞（通称：ボラチャレ）2017」の募集テーマは「社会課題にチャレンジ!」。審査の結果、以下のプロジェクトが採択された。各受賞団体に奨励金が授与され、2018年9月末日までそれぞれの活動を行った。

●2017 年度助成企画【スタートアップ部門】

プロジェクト名	団体名
FYS ライブパフォーマンス	For Your Smile
1日でできる手話講座	ハム
Do for 子ども食堂	E.S.S.地域貢献部

●2017 年度助成企画【ジャンプアップ部門】

プロジェクト名	団体名
人と犬、つなぎ・つながるプロジェクト	MG ハロードッグ
学生のチカラで、笑顔“ニュンニヤム”を守ろう、広げよう！	ニュンニヤム
三つ折りパンフレット	明治学院大学任意団体 NPO 法人 JUNKO Association

このうち、ジャンプアップ部門3団体の活動について、学生に報告してもらう。命をテーマに人と動物との関係を考えるもの、国際的な課題解決のため継続的な支援を目指すもの、自団体の活動を見つめ直すことで新たな活動への足懸かりにするもの、それぞれの社会問題に取り組むべく、課題と向き合った。



※スタートアップ部門3団体の活動報告はボランティアセンターウェブサイトで紹介しています。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/volunteer/activity/program/challenge-award/news/2017startup-houkoku.html>

◇身近な存在だからこそ

プロジェクト名	人と犬、つなぎ・つながるプロジェクト
団体名	MG ハロードッグ
企画の目的	動物愛護の啓発・理解

実施概要

戸塚まつりでの企画、長期休暇中の4泊5日の実地調査、週に1度のミーティング、この三つを柱に活動した。

戸塚まつりの企画では、犬用おもちゃ作り、塗り絵、犬の殺処分に関する絵本の紹介を通して、犬の殺処分の実態を一人でも多くの方に知ってもらおうと啓発活動を行った。戸塚まつり参加者は地域の方が多く、また年齢層も幅広いことから、誰にとっても伝わりやすいことを意識し取り組んだ。



実地調査では、動物愛護のNPO法人に受け入れていただき、保護犬のお世話を中心に活動した。また、事前学習では、保護犬との関わり方などについて話し合った。事後学習では、感じたことや反省をまとめ報告書を作成した。

ミーティングでは、企画の計画を立てることはもちろん、動物愛護の知識を深めるために話し合いを行った。

主に三つの活動で、学んだことを活動に生かす、活動で生かすという循環を途切れないようにした。

感想・活動を通して得た学び

まず、約1年間MGハロードッグとして活動を続けたことで、メンバー自身が動物愛護について関心を深めたこと、関心を持ち続けることができたことはとても意味のあることだと感じた。社会課題に対して常に関心を持つことは、簡単そうで難しいと改めてこのプロジェクトを通して感じた。

活動によって、感じたことや学びはそれぞれだが、今回のプロジェクトで一貫して考えさせられたことがある。

それは「命のおもさの伝え方」についてだ。動物愛護をテーマにした時点で命のおもさを考えることは



重要になるが、今回、その伝え方の難しさを感じた。例えば、殺処分を伝えるとき、よりリアルに現状を伝えようとすると、犬が「死」んでしまうや、「殺」すという言葉が出てくる。しかし、「死」や「殺」は残酷な文字であり、人によってはそのエピソードがトラウマになってしまう危険性もある。これに気づいた時、私たちの扱う社会課題がどれだけ重要で、慎重に取り組まなければいけないことなのかを学んだ。

今後に向けて

1度始めたからには活動を継続させていきたいと考えている。そのために、組織の基盤を固め、活動目的をメンバー全員意識するようにする。また、今回学んだ「命」をテーマに扱うことについて、メンバー間だけでなく、さまざまな人の意見を参考にさせて頂くことも重要だと感じている。反省を生かし、今後もより良い活動を目指す。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇継続的な支援のため

プロジェクト名	学生のチカラで、笑顔“ニュンニャム”を守ろう、広げよう！
団体名	ニュンニャム
企画の目的	チャイルドケアセンターの子どもたちの支援

実施概要

- (1) 12月に、チャイルドケアセンターの子どもたちにクリスマスプレゼントを送った。
- (2) 夏休み・春休みを利用して、メンバーの数人がカンボジア YMCA へ渡って現地のニーズに合わせて活動を行った。子どもたちが安心して食事ができるようにコンクリートの足場やキッチンを作ったり、村で買った苗を植える花壇を作ったり、遊具を手作りしたりした。
- (3) 企業訪問・インタビューまでには至らなかったが、勉強会も数回行うことができた。また、戸塚 YMCA の幼稚園で1日体験させていただき、日本とカンボジアの幼稚園・子どもを比較することで、幼稚園の発展段階を学ぶこともできた。
- (4) カンボジアでの活動を写真と一緒にまとめたパネルを横浜図書館とボランティアセンターにて展示した。



感想・活動を通して得た学び

カンボジア YMCA の子どもたちが使えそうな古着や文房具などを集めた際に、いかに自分たちがモノに溢れた生活をしているかを改めて感じた。そこから、無駄遣いや衝動買いを抑え、長く使えるモノを選ぶようになるなど、自分の生活の見直しにもつながった。また、戸塚 YMCA の方にもご協力いただき、カンボジアに行く際



と一緒に持って行っていただいた。

カンボジアに行くメンバーが中心となって、チャイルドケアセンターの先生と連絡を取り続けていた。その都度、何が必要なのか、何をしたら喜んでもらえるのかを尋ねては、子どもたちがどういった問題を抱えながら生活しているのかを知ることができた。また、訪れた際には、村で備品を購入することで現地でお金を使うようにした。どんな形でも人とのつながりがボランティアのエッセンスなのかなと感じた。

感想・活動を通して得た学び

現地に行って作業をすることができれば、フィールドスタディ中に感じた人手不足を直接的に支援することが可能だ。しかし、時間や費用といった問題で、カンボジアを訪れることは容易ではない。よって、日本にいてできることの幅を増やすことが今後の課題になると考える。ただモノを集めたり買ったりして送るだけで解決するのではなく、「関わること」で解決ができるようになりたい。また、依存性のある解決策ではなく、子どもたちの自立を支援できる形態でなければならないと思う。学生のチカラで何ができるかについて、継続的に考えて取り組んでいきたい。



(国際学部国際学科)

◇明治学院大学ボランティア団体広報力&つながり向上計画！！

プロジェクト名	三つ折りパンフレット
団体名	明治学院大学任意団体 NPO 法人 JUNKO Association
企画の目的	団体の広報力の向上、活動に対するモチベーションの向上、学生団体のつながりの強化

実施概要

- ・三つ折りパンフレットの作成
- ・ボランティアについて考える学生交流会の実施

感想・活動を通して得た学び

- ・三つ折りパンフレットの作成

今回、新たに三つ折りパンフレットを作成することによって、どんな情報をパンフレットに掲載すべきか、初めて私たちの団体を知る人にとってどんなレイアウトが適しているのかを考え直す良い機会となった。また、作成の際に他団体の広報媒体を参考にすることで、私たちの団体の活動との比較や評価にもつなげることができた。

- ・ボランティアについて考える学生交流会の実施

この企画は、元々、私が所属している団体に対する問題意識から企画立案に至った。学年が上がるにつれ、ボランティア活動をするための準備やミーティングの時間を業務や作業と捉える人が増え、

本来自分がなぜボランティアをやっているのか忘れてしまい、学生らしい熱を失っていると感じた。そのため、ボランティアをやりたいという思いの原点に戻るような企画を立案した。

参加者からは、「ボランティアをする一人の学生として交流会に参加することで、改めて自分の思いを仲間に伝える機会となった」「責任を改めて実感できた」「いつも一緒にいる仲間の本心を聞け、新たな発見があった」との意見をもらった。

私自身も、この会を通して、自分が誰のために、なぜボランティア活動をやっているのかを再認識する機会となり、同じ団体のメンバーの思いを知ることによって、より良い企画を立案したり、実施するためのモチベーションの向上につながった。心から実施して良かったなと思った。

今後に向けて

・三つ折りパンフレット

2018年11月より随時、学内、参加したイベントや訪れた高校等で配布した。今回作成したパンフレットが私たちの団体を知るための第一歩となり、そこから私たちの団体のHPやFacebookへアクセスするための機会としたい。そのため、三つ折りパンフレットを作成したことに満足するのではなく、各SNSやイベント、講演会での団体の広報にも力を入れていきたい。

・ボランティアについて考える学生交流会

今回立案したような自分自身を見つめ直す機会のニーズを、実際に企画実施することで知ることができた。このような会は、一緒に活動しているメンバーを知るためにもとても重要だと思ったので、団体内での実施も考えている。今回の参加者から、学年別や団体代表等役職別での企画実施も得ることが多いのではないかとアドバイスがあったので、今後の企画立案の参考にしていこうと思う。



また、今回参加してくださった方々と今後も関われるように、必ず1年に1回集まる機会を作りたいと思っている。

(国際学部国際学科)

10.2 ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2018 採択団体一覧

2018 年度の募集は「社会課題にチャレンジ!」をテーマとし、書類審査・面談を経て8プロジェクトが採択された。各受賞団体に奨励金が授与され、2019 年 9 月末日までそれぞれの活動を行う。各団体は、部門によって活動報告会での発表や活動報告書を提出し、今後につなげるため自分たちの活動を振り返ることが求められる。

●2018 年度助成企画【スタートアップ部門】

プロジェクト名	団体名
「できない、やらないのは子どものせい」と思ったあなたへ	小林潤一郎ゼミ
ペットボトルキャップ回収公演	D (アート団体)

●2018 年度助成企画【ジャンプアップ部門】

プロジェクト名	団体名
全ての犬の幸せの輪を広げるプロジェクト	MG ハロードッグ
YOU は何しに東南アジアへ?	明治学院大学任意団体 NPO 法人 JUNKO Association
『吉里吉里から』を更新し、現在の吉里吉里を知ってもらおう	「Do for Smile@東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム
郡上おどり in 戸塚	郡上おどり in 戸塚 学生実行委員会
「HEIWA の鐘」を響かせる	Light House
MG Closet	MGC